



宮城野

MIYAGINO

みんなで無事故操業

全農エネルギー株式会社 仙台石油基地 神山 康雄

東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受けましたが、人的被害はなく、関係先の皆様のご支援により、9ヵ月という短期間で復旧でき、東北地域の石油物流拠点として再生しました。

さて、全農エネルギー株式会社の前身である全農燃料ターミナル株式会社は1979年12月に誕生しました。

世界を揺るがした第一次オイルショックの経験から、JA 組合員様に石油やLPガスを安定供給すべく創立されました。

全国6ヵ所の石油基地を運営し、国内外の製油所から、製品油である、ガソリン・灯油・軽油・重油などをタンカー船で受入を行い、陸上のタンクに保管、タンクローリー車で各地のサービスステーションや需要家に出荷しております。

仙台石油基地は、宮城野区港4丁目に位置し、76,415㎡の敷地に各設備を配置しております。

現在、従業員8名と休日・夜間勤務の警備員3名の、計11名で日々の安全操業に努めています。

ローリー車へ製品油の積み込みは、運送会社のローリー車乗務員が作業を行ないます。

早朝のラッシュ時は従業員と警備員とで監視のもと、16車線の積場で製品油の積み込みを行います。

ローリー車への積込は、自動化されており乗務員一人で積込作業を実施し、設備の異常時や緊急時には、警報の発報や積込停止などの高い安全性が確保

されています。

また、乗務員とは毎年合同での防災訓練を行っています。

今年度は、早朝にローリー車から火災が発生したという想定で訓練を行いました。

早朝の災害発生時は、早番の従業員が中心となり、少ない人数で災害の拡大を防止するための行動を取らなければなりません。

災害時に慌てないためにも、いくつかの想定を検討し、早朝での緊急時における行動マニュアルを準備しています。

合同防災訓練も、このマニュアルに沿って行われ、通報・指示、緊急停止、連絡、負傷者の救助、初期消火、ローリー車避難、人員確認などを、早番の従業員が指揮をとり、警備員、乗務員に様々な指示を出し全員で協力して行動しなければなりません。

特に、ローリー車の積込状況を把握して、どの車線から避難させるか、その後の対応作業も混乱なく速やかに活動を行うかなど、訓練も緊張を欠かすことはありません。

2016年11月22日早朝の福島県沖地震（M7.4）においては、一時津波警報まで発令されましたが、このような訓練が功を奏し、速やかな避難活動を行うことができました。

このように、石油基地に出入りする全ての人と共同して、無事故操業に励んでいます。

合同防災訓練状況



自動火災報知設備による報知訓練



ローリー車避難訓練



負傷者搬送訓練



人員確認訓練